

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	アーセナルリアクティブ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.476	△RG	0.048	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **5 1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対象ボール：アーセナルアンギュラー

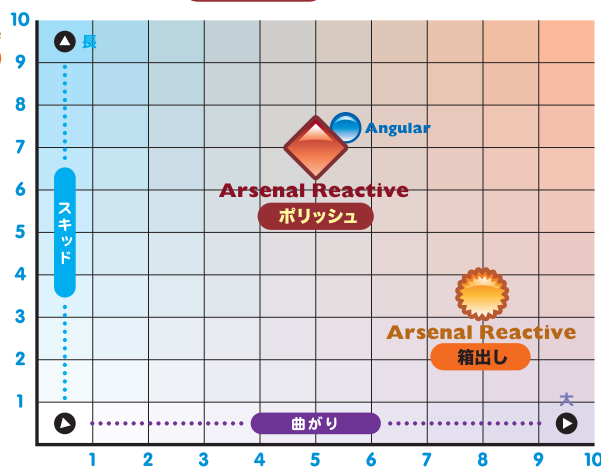
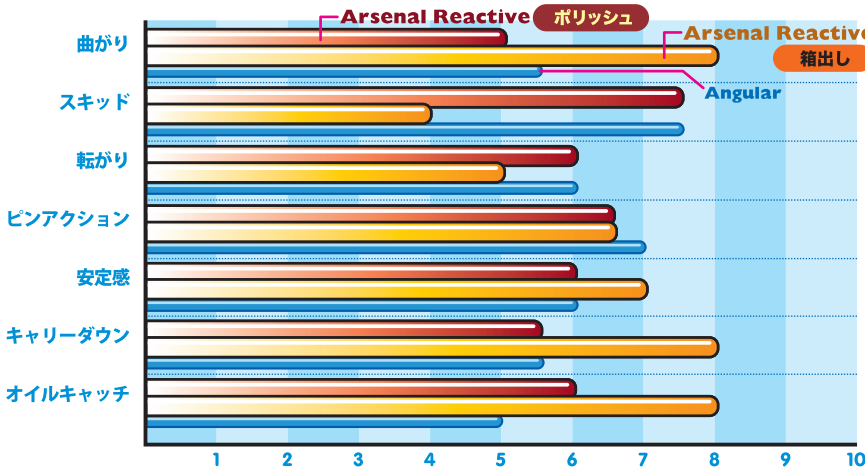
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **5 1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

ボールの評価

今回のアーセナルはリアクティブ素材ながら箱出しの表面加工がサディング仕上げのため、スキッドは滑る感じは全くなく、どちらかと言うと噛むイメージを強く感じる。アーセナルシリーズ3種類のなかで最もスキッドは短いため対オイル用として使用していただけるでしょう。曲がり幅的にも大きく、手前からの強いキャッチ力を感じるストロングアークにバックエンドでややシャープに動きをみせるリアクションです。キャリーダウンにも無類の強さを見せる特徴がありますので、特にボールが曲がらないタイプのボウラーでもしっかりとリアクションが期待できます。ポリッシュした場合、マイルドなシャープとアークの中間の曲がりを見せ、ミディアムコンディションで非常に扱いやすいスペックとして使用して頂けます。アンギュラーのしっかり角の出るホッケースティックの曲がりに対し、多少曲がり幅は小さくなりますがオールラウンドでの使用を目的とするならば、ポリッシュ仕上げを選択しても良いでしょう。これまでのボールはサディング仕上げとポリッシュ仕上げの両方で各々良いパフォーマンスを供給できるボールは少なかったのですが、このアーセナル・リアクティブはボウラータイプまたはコンディションにあわせ、用途に応じてどちらを選択してもそれぞれに良いイメージで投球することが出来るでしょう。ピンアクションは最近のリアクティブタイプにはない柔らかく、低くとぶアクションで淡白な感じは全くしません。現在パティクル素材が主流の中、なぜリアクティブ素材なのかの意味を知っていただけると良いでしょう。

特記事項

表面加工を変化させることにより、さまざまなコンディションに対応できるボール。一昔前のリアクティブのイメージを一新させるそんなボールです。